

日本協同組合学会 Newsletter

Vol. 25 No. 3(通巻 67 号)

2014 年 8 月 31 日

～第 34 回大会案内号～

発行 日本協同組合学会 責任編集 会長 柳沢 敏勝
〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町 11 番地 飯田橋レインボービル 5 階
J C 総研 (日本協同組合総合研究所) 協同組合研究部内 日本協同組合学会事務局
TEL:03-6280-7254 FAX:03-3268-8761
E-mail:kyodo-gakkai@jc-so-ken.or.jp
ホームページ: <http://www.coopstudies.com/>

日本協同組合学会 第 34 回大会案内

第 1 日目 10 月 24 日 金曜日

会場: 愛媛大学農学部 (樽味キャンパス)

- 地域シンポジウム 13:30～17:00

第 2 日目 10 月 25 日 土曜日

会場: 愛媛大学農学部 (樽味キャンパス)

- 個別論題報告・テーマセッション 9:00～12:00
- 会員総会 12:10～12:50 (昼食を取りながらの開催です) ※
- 大会講演 13:00～14:30
- シンポジウム 14:45～17:45
- 交流会 18:00～20:00

第 3 日目 10 月 26 日 日曜日

- エクスカージョン 8:30～16:00 (予定)

<申込案内>

基本参加費: 会員 1,500 円 非会員 2,000 円 (報告要旨集のみ希望者 1,800 円)

交流会参加費: 一般会員 4,000 円、学生会員 3,000 円 (参加申込ハガキでの事前申込)

エクスカージョン: 3,000 円 (参加申込ハガキでの事前申込)

※第 2 日目 (10/25) の昼食について

愛媛大学農学部 (樽味キャンパス) 周辺では徒歩範囲で昼食がとれる場所が限られており、コンビニも 500m 以上離れています。第 2 日目 (10 月 25 日) の昼食は大学の食堂も閉店していますので、できる限り事前に弁当をお申し込みください (総会は、昼食を取りながらの開催です)。500 円ですので、参加申込ハガキで申し込むとともに、参加費等とあわせて代金を振り込んで下さい。

☆同封の参加申込ハガキに必要事項を記入の上、**10 月 10 日 (金) 必着**で送付して下さい。

また、学会参加者・報告要旨集希望者は、必要な代金を下記口座に **10 月 17 日 (金) までに**振り込んで下さい。

振込口座

郵便振替 加入者名：日本協同組合学会 口座番号：00140-5-557520
農林中央金庫 本店 (958) 日本協同組合学会 口座番号：NO. 5026910

実行委員会連絡先

愛媛大学農学部 (樽味キャンパス)
〒790-8566 松山市樽味3丁目5-7
実行委員長 中安 章 TEL: 089-946-9836 nakayasu@agr.ehime-u.ac.jp
事務局長 板橋 衛 TEL: 089-946-9971 itabashi@agr.ehime-u.ac.jp

10月24日(金) 地域シンポジウム

日時：2014年10月24日(金) 13:30~17:00

会場：愛媛大学農学部 (樽味キャンパス) 大会議室 (農学部本館2F)

松山市樽味3丁目5-7

テーマ：「地域の資源とくらしを守り支える協同の取組—愛媛県下の実践—」

趣旨：産業政策としての農業・農協のあり方を示した規制改革会議による「農業改革に関する意見」に対し、協同組合としての農協を無視した一面的な営農経済事業論であるとの批判が高まっており、ICAをはじめとした海外の協同組合セクターからも多くのメッセージが寄せられている。同時に、地域の資源や人々を基盤として事業展開を行っている協同組合セクターとしては、取り組んでいる事業内容を具体的に示し、地域・国民にその重要性を認識させる必要がある。本シンポジウムでは、愛媛県において、地域の資源とくらしを守り支えるために自分たちで何とかしようとして取り組んできた協同の組織による多様な事業展開に注目する。そこから、資源を守りくらしを支える協同の取組について実践的に考え、今後の協同組合運動のあり方について議論していきたい。

コーディネーター：板橋 衛 (愛媛大学農学部)

報告1：コープえひめにおける宅配事業の発展・進化と見守りネットワークの取組

松本 仁 (生活協同組合コープえひめ 運営企画部長)

報告2：地産地消の地域農業振興の拠点づくりをめざして

西坂 文秀 (越智今治農協 直販開発室長)

報告3：森林組合は協同組合としてどうあるべきか

—組合職員の声を基にした考察—

向井 丈能 (愛媛県森林組合連合会 総務管理課長)

報告4：無茶々園の活動と21世紀型運命共同体づくり

—エコロジカルな地域社会を目指して—

大津 清次 (株式会社地域法人「無茶々園」 代表取締役)

コメンテーター：村田 武 (愛媛大学社会連携推進機構)

相良 孝雄 (協同総合研究所 事務局長)

10月25日(土)午前 個別論題報告・テーマセッション

日時：2014年10月25日(土)9:00~12:00

会場：愛媛大学農学部

第1会場 21講義室

☆第1報告~第5報告 テーマセッション：原子力災害から3年半、福島における協同組合間協同の取り組み

第1報告(9:00~9:30)

座長：守友 裕一(福島大学)

報告者：石井 秀樹・小山 良太・林 薫平・朴 相賢・棚橋 知春(福島大学)

論題：産消提携による土壌放射能計測から営農指導データの構築

第2報告(9:30~10:00)

座長：守友 裕一(福島大学)

報告者：千葉 あや(地産地消運動促進ふくしま協同組合協議会)・

高瀬 雅男(福島大学協同組合ネットワーク研究所)・小山 良太(福島大学)

論題：原発事故と福島県における協同組合間協同の機能変化

ー地産地消ふくしまネット(生協連・農協中央会・森連・漁連)を対象にー

第3報告(10:00~10:30)

座長：守友 裕一(福島大学)

報告者：林 薫平・井上 健・小山 良太(福島大学)・濱田 武士(東京海洋大学)

論題：福島県海域の放射能汚染下における海産物汚染対策および検査・流通体制

ー県漁連の「地域漁業復興協議会」の協議経過と単位漁協の取り組みを中心にー

第4報告(10:30~11:00)

座長：玉 真之介(徳島大学)

報告者：則藤 孝志(福島大学)

論題：継続・発展的な食農連携モデルとしての協同組合間連携に関する研究

ー原子力災害後の「ふくしま大豆の会」に着目してー

第5報告(11:00~11:30)

座長：玉 真之介(徳島大学)

報告者：朴 相賢・林 薫平・石井 秀樹・野川 憲夫(福島大学)

論題：生協による自主検査体制構築の意義と課題

ー福島県生協連「測定データ活用事業」を事例にー

第6報告(11:30~12:00)

座長：玉 真之介(徳島大学)

報告者：渡辺 克司(鹿児島国際大学)

論題：「さつまいも焼酎」原料の調達構造

ー農協甘しょ部会と仲買人(「集出荷業者」)、営農生産組合等との比較よりー

第2会場 22講義室

☆第1報告~第4報告 テーマセッション：産地の実態からみた系統販売事業の課題
ー全農・経済連の役割を中心にー

第1報告(9:00~9:30)

座長：北川 太一(福井県立大学)

報告者：西井 賢悟((一社)長野県農協地域開発機構)

論題：長野県における系統園芸事業の実態と課題ーレタスを中心としてー

第2報告(9:30~10:00)

座長：北川 太一(福井県立大学)

報告者：成田 拓未(東京農工大学)・西井 賢悟((一社)長野県農協地域開発機構)

論題：茨城県における系統園芸事業の現状と課題ーVFS事業を中心にー

第3報告 (10:00~10:30)

座長: 北川 太一 (福井県立大学)

報告者: 伊藤 亮司 (新潟大学)・小松 知未 (福島大学)・石塚 哉史 (弘前大学)・
小池 晴伴 (酪農学園大学)

論 題: 産地間競争の現局面と全農系統コメ共販の課題
— 東日本の主要産地を中心に —

第4報告 (10:30~11:00)

座長: 北川 太一 (福井県立大学)

報告者: 板橋 衛 (愛媛大学)

論 題: 遠隔青果物産地における県連機能と単協ブランド

第5報告 (11:00~11:30)

座長: 小池 晴伴 (酪農学園大学)

報告者: 瀬津 孝 ((一社) 農業開発研修センター)

論 題: J Aの地域農業振興計画策定をめぐる論点と課題
— アンケート調査結果を踏まえて —

第6報告 (11:30~12:00)

座長: 小池 晴伴 (酪農学園大学)

報告者: 小池 恒男 ((一社) 農業開発研修センター)

論 題: 農業協同組合の地域農業振興計画策定の今日的意義

第3会場 23講義室

☆第1報告~第2報告 テーマセッション: 社会・生協の構造変化と新しい「つながり」づくりの試み
— 「パーティ」の実践を通じて —

第1報告 (9:00~9:30)

座長: 片上 敏喜 (奈良女子大学)

報告者: 青木 美紗 (奈良女子大学)

論 題: 生協の「パーティ」とは何かを実践例から考える

第2報告 (9:30~10:00)

座長: 片上 敏喜 (奈良女子大学)

報告者: 加賀美 太記 (就実大学)

論 題: 「パーティ」の位置づけと可能性— 組合員の受け止め方と「班」との比較から —

第3報告 (10:00~10:30)

座長: 志波 早苗 (パルシステム生活協同組合連合会)

報告者: 走井 洋一 (東京家政大学)

論 題: ヒトによる「協同」の限界と可能性— 協同組合の人間学的基底 —

第4報告 (10:30~11:00)

座長: 志波 早苗 (パルシステム生活協同組合連合会)

報告者: 三浦 一浩 ((一財) 地域生活研究所)

論 題: コミュニティに埋め込まれた「電気生協」の可能性
— 栄ガス消費生活協同組合と安房電気利用組合の事例から —

第5報告 (11:00~11:30)

座長: 志波 早苗 (パルシステム生活協同組合連合会)

報告者: 近本 聡子 ((公財) 生協総合研究所)

論 題: 子育て・保育の協同におけるマルチステークホルダー形態の現状と比較分析

第4会場 41 講義室

第1報告 (9:00~9:30)

座長: 増田 佳昭 (滋賀県立大学)

報告者: 河田 大輔 (きたみらい農業協同組合) ・
小林 国之 (北海道大学) ・ 山内 庸平 (きたみらい農業協同組合)

論題: 北海道の広域合併農協における出向く営農の変遷と機能変化
—JA きたみらいを事例として—

第2報告 (9:30~10:00)

座長: 増田 佳昭 (滋賀県立大学)

報告者: 森田 泰之 (帯広畜産大学)

論題: 農協の営農指導と融資・決済制度の機能に関する考察
—北海道の組合員勘定制度と貯金決済制度を採用する農協を事例として—

第3報告 (10:00~10:30)

座長: 小野 雅之 (神戸大学)

報告者: 梶原 雍之 (JA おちいまばり)

論題: 農協の経営構造の変化と課題

第4報告 (10:30~11:00)

座長: 小野 雅之 (神戸大学)

報告者: 小林 国之・藤田 久雄・坂下 明彦 (北海道大学)

論題: 系統農協組織の改革と経済連機能の現段階的意義に関する研究

第5報告 (11:00~11:30)

座長: 冬木 勝仁 (東北大学)

報告者: 福澤 萌・小林 国之・坂下 明彦 (北海道大学)

論題: 農作業ヘルパーの農業・農村担い手への可能性
—ヘルパー参加者の属性と就業意向の分析から—

第6報告 (11:30~12:00)

座長: 冬木 勝仁 (東北大学)

報告者: 中村 正士 (北海道大学)

論題: 水稻作の新技术導入における研究会組織と農協の営農指導の役割と可能性
—北海道の水稻直播栽培を事例として—

第5会場 42 講義室

第1報告 (9:00~9:30)

座長: 荒井 聡 (岐阜大学)

報告者: 横井 昭敏・板橋 衛 (愛媛大学)

論題: 集落営農組織の法人化過程における集落内協同意識の変化
—農事組合法人T生産組合を事例として—

第2報告 (9:30~10:00)

座長: 荒井 聡 (岐阜大学)

報告者: 高橋 祥世 (北海道大学)

論題: 複数戸法人における女性の役割と意思決定への関与
—北海道N町を事例として—

第3報告 (10:00~10:30)

座長: 高梨子 文恵 (広島大学)

報告者: 若林 諒・小林 国之・渡辺 康平 (北海道大学)

論題: 農山漁村におけるネットワーク型地域づくり組織の形成要因

第4報告 (10:30~11:00)

座長: 高梨子 文恵 (広島大学)

報告者: 鄭 龍苔・渡辺 康平・小林 国之 (北海道大学)

論題: 新たな農村移住者の性格に関する類型的考察

第5報告 (11:00~11:30)

座長: 小松 泰信 (岡山大学)

報告者: 正木 卓 ((一社)北海道地域農業研究所)・中山 忠彦・坂下 明彦 (北海道大学)

論題: 会計事務所による農業経営支援の展開と農協営農指導との補完関係
—北海道における税務事務所の事例から—

第6報告 (11:30~12:00)

座長: 小松 泰信 (岡山大学)

報告者: 渡辺 康平・小林 国之・若林 諒 (北海道大学)

論題: 遠隔産地における6次化商品の販路としての生活協同組合の役割

第6会場 43講義室

第1報告 (9:00~9:30)

座長: 白武 義治 (佐賀大学)

報告者: 李 香淑 (iCOOP 協同組合研究所)

論題: 韓国における小麦産業の現況と生協の実践— iCOOP 生協の事例を中心に—

第2報告 (9:30~10:00)

座長: 白武 義治 (佐賀大学)

報告者: Poudel Niroja and Itabashi Mamoru (愛媛大学)

論題: Role of Agriculture Co-operative In Improving Living Standard of Rural Poor In Nepal.

第3報告 (10:00~10:30)

座長: 岡村 信秀 (広島県生活協同組合連合会)

報告者: 藤谷 岳 (下関市立大学)

論題: 「協同」で目指す地域の継続的発展

第4報告 (10:30~11:00)

座長: 岡村 信秀 (広島県生活協同組合連合会)

報告者: 今井 迪代 (明治大学)

論題: 社会的連帯経済に関する国際議論と研究動向
—国連社会開発研究所 (UNRISD) の取り組みを中心として—

第5報告 (11:00~11:30)

座長: 大高 研道 (聖学院大学)

報告者: 伊丹 謙太郎 (千葉大学)

論題: 賀川豊彦同労者における事業観・運動観
—浜松ミッションと聖隷福祉事業団の場合—

第6報告 (11:30~12:00)

座長: 大高 研道 (聖学院大学)

報告者: 大宮 めぐみ (中国学園大学)

論題: 農業協同組合における地産地消への対応と課題
—病院給食を対象として—

10月25日(土)午後 大会講演・シンポジウム

日 時：10月25日(土) 13:00～17:45

会 場：愛媛大学農学部 大会議室(農学部本館2F)

テ ー マ：協同組合は労働の有り様をどのように考えて来たか

- 13:00～13:05 会長挨拶 柳沢 敏勝(明治大学)
- 13:05～13:10 開催校挨拶 中安 章(愛媛大学)
- 13:10～14:30 基調講演 大沢 真理(東京大学)
「日本の男性稼ぎ手モデルの現実と近未来の生活保障に向けた政策課題
～非営利・協同セクターに何ができるか～」(仮題)
- 14:45～17:45 シンポジウム
「協同組合は労働の有り様をどのように考えて来たか」
～非営利・協同セクターでの仕事と働き方～
- 14:45～15:00 座長解題 清水 みゆき(日本大学)
- 15:00～15:30 報告1：日本型労働の何が問題か、協同組合における労働のあり方を問う
柳沢 敏勝(明治大学)
- 15:30～16:00 報告2：生協職員の意識調査からの実態報告
近本 聡子((公財)生協総合研究所)
- 16:00～16:30 報告3：ワーカーズ・コレクティブによるコミュニティワークの実践
中村 久子((NPO)ワーカーズ・コレクティブ協会)

[パネルディスカッション] 16:30～17:45

パネリスト：大沢 真理・柳沢 敏勝・近本 聡子・中村 久子

コーディネーター：清水 みゆき

【座長問題提起】

清水 みゆき(日本大学)

本来、協同組合とは、権力、資金力にまさる企業活動に対して、それら権力や資金力が貧しい立場の生活者(同時に労働者、農業者)が、自らの人権を守るために、弱い個人の力を結集し、協同することで生活、労働上の問題を解決して行こうという「運動」体である。運動体であるがゆえに、その組織で働くということは、結集することの意義、問題が解決されて行く喜び、そうした意義や喜びに出会える幸福感が期待される。

従って、現在のように、1) まずは男性の自己実現が優先され、女性のそれが遅れている社会、2) 家事・育児を担当している人間が、ライフサイクルに合わせた働き方を求めているにもかかわらず、それに対応できる雇用の場が少ない、など、結局働いて給与を得る男性像をもとに設計されている社会にあって、私たちは協同組合という運動体は上記のような問題を解決している(してくれる)だろう、と期待する。ところが現在、協同組合にも労働組合がある。理論的には、主張しなければ、団結しなければ労働者の権利を守らない協同組合がある、ということになる。それを協同組合というのだろうか。

また、実際の所、「協同組合運動」という名のもとに、労働が強化される可能性も一方では(どうか、かつては)存在していた。一昔前の、社会運動そのものが労働になっているケースである。これは全くない、と言えるのであろうか。

本大会では、こうした現状における男性給与所得者社会の限界(大沢講演)、限界故に期待される協

同組合で働くということの意味（柳沢報告）、実際に協同組合で働いている人々の現状（近本報告）、ライフサイクルに合わせた働き方を実践している組織（中村報告）、などについて報告して頂く。協同組合は、本当は何を目指して集うのか。働くことが人間の本質であるとするならば、働き難さを無くして行くことこそ求められている。

会員総会

第2日目の昼食休憩時に、以下のとおり会員総会を開催します。多くの会員の皆様のご出席を期待します。

日 時：10月25日（土）12：10～12：50

会 場：愛媛大学農学部（樽味キャンパス）大会議室（農学部本館2F）

主な議題：①2013年度事業報告および2014年度事業計画

②2013年度決算報告および2014年度予算

③その他

交流会

日 時：10月25日（土）18：00～20：00

会 場：愛媛大学農学部会館

参加費：一般会員4,000円、学生会員3,000円です。

準備の都合上、参加申込ハガキで事前に申し込んで下さい。なお、交流会参加費振込後は返金いたしません。

2013年度日本協同組合学会 第3回理事会開催案内

大会第1日目の10月24日（金）に、2013年度第3回理事会が下記の要領で開催されます。理事の皆様は、ご出席くださいますよう、ご案内いたします。詳細は別便でお送りします。

日 時：10月24日（金）18：00～20：00

会 場：愛媛大学農学部（樽味キャンパス）大会議室（農学部本館2F）

主な議題：①2013年度事業報告および2014年度事業計画

②2013年度決算報告および2014年度予算

③その他

※第3回理事会に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

J C総研（日本協同組合総合研究所）協同組合研究部内

日本協同組合学会事務局 比嘉 政浩・小川 直人

TEL:03-6280-7254 FAX：03-3268-8761

E-mail:kyodo-gakkai@jc-so-ken.or.jp

10月26日(日) エクスカーション

〔企画趣旨〕

1日目の地域シンポの内容とも関連させながら、愛媛県内における漁協、農協の現場を視察し、豊かな自然に恵まれた愛媛県の海と山とそこで営まれる暮らしを感じ取っていただけたらと思います。同時に、そうした豊かな自然と暮らしを脅かす存在である伊方原発の実態に関しても学習していただきます。

コース (予定)

8:30 松山市駅前またはJA愛媛前 出発

伊予市双海町下灘びちびち市(下灘漁協女性部の取組) 9:30着、10:15発

伊方原発ビジターハウス 11:00着、11:45発

八幡浜「みなと」 12:10着、昼食、13:30発

愛媛たいき農協農産物直売所「愛たい菜」 14:00着、14:50発

松山空港 16:00着

JR松山駅 16:30着

松山市駅 16:45着

参加費 3,000円

宿泊について

各自手配して下さい。

なお、季節柄、松山市内でも各種の研究集会が開催される予定です。また、10月26日には「瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会」が開催されます。開催地は今治市ですが、松山市内に宿泊する選手および関係者も多いと思われます。宿泊の手配は早めにされることをお勧めします。

会場案内 (アクセス)

愛媛大学農学部(樽味キャンパス)

住所: 〒790-8566 松山市樽味3丁目5-7 <http://www.ehime-u.ac.jp/access/tarumi/index.html>

松山空港からJR松山駅、松山市駅まで:

- ・伊予鉄バスをご利用の場合

JR松山駅まで: 空港リムジンバス「JR松山駅前」下車

松山市駅まで: 空港リムジンバス「松山市駅」下車

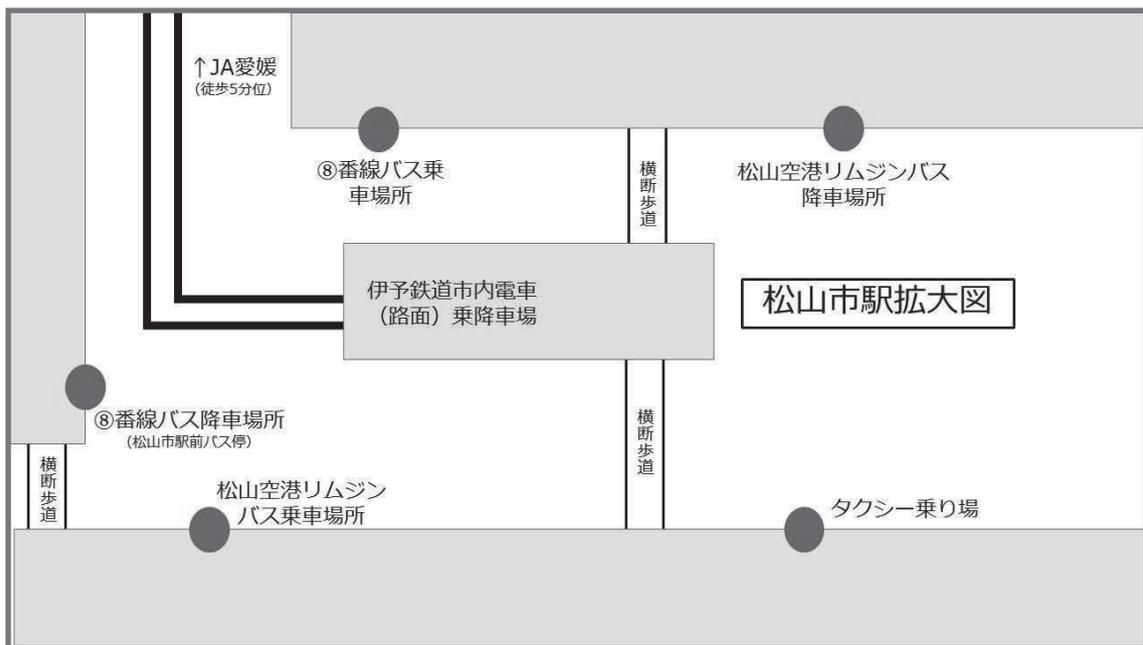
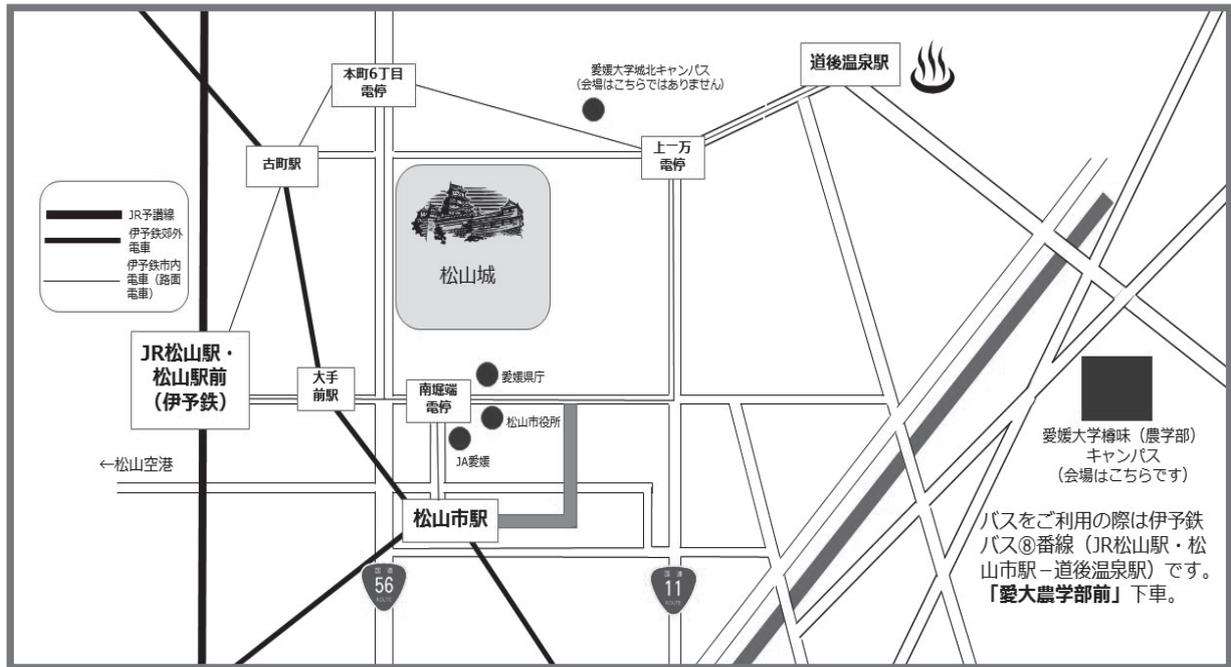
- ・JR松山駅から

伊予鉄バスをご利用の場合 8番線(東野経由)「愛大農学部前」下車

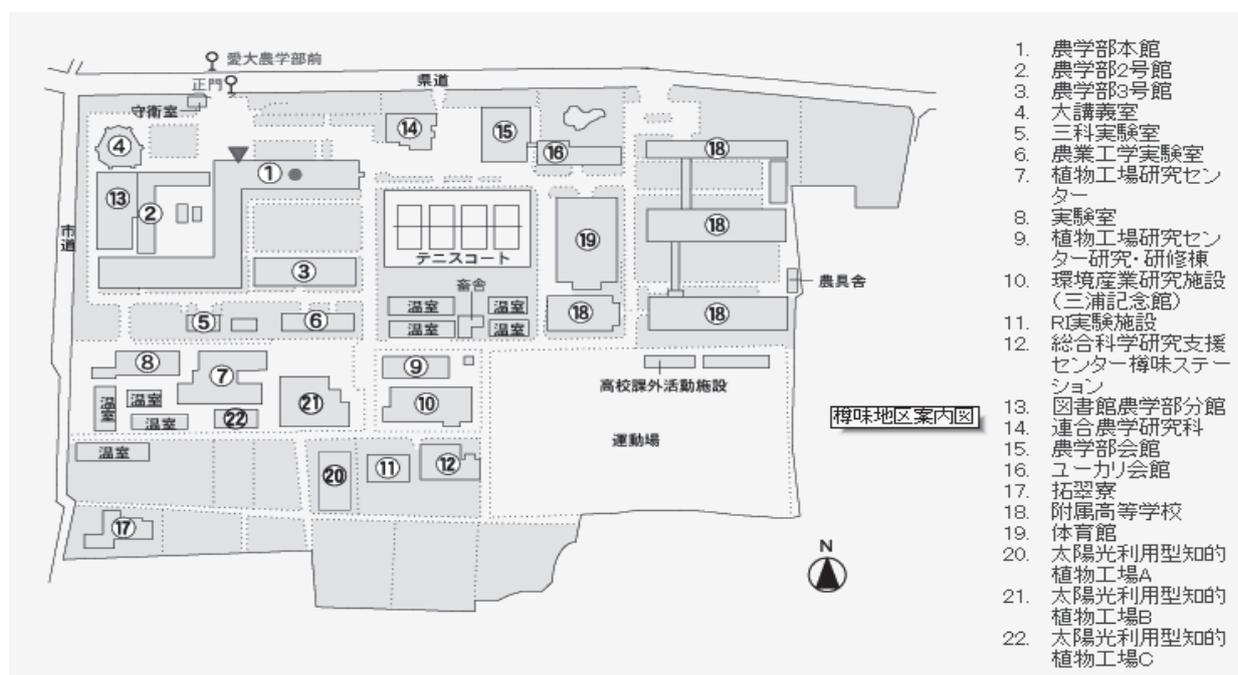
- ・松山市駅から

伊予鉄バスをご利用の場合 8番線(東野経由)「愛大農学部前」下車

市内交通案内 次ページの図をご参照ください。



愛媛大学農学部キャンパスマップ



◎会員メーリングリストへの登録のおさそい◎

当学会では、会員どうしの情報交換、学会からのお知らせ等のためのメーリングリストを開設しております。現在、53名の方が登録されています。メーリングリストへの登録をご希望の方は kyodo-gakkai@jc-so-ken.or.jp へご連絡ください。

